

## 「課題解決型高度医療人材養成プログラム」における工程表

申請担当大学名	岡山大学
連携大学名	北海道大学, 金沢大学, 大阪大学, 九州大学, 長崎大学, 鹿児島大学, 岩手医科大学, 昭和大学, 日本大学, 兵庫医科大学
事業名	健康長寿社会を担う歯科医学教育改革

### ① 本事業終了後の達成目標

本事業終了後の達成目標	
達成目標	<p>口くうから全身健康に寄与できる歯科医師、及び、急性期、回復期、維持期、栄養サポートチーム(NST)、在宅介護現場に対応できる歯科医師を育てる。また、適切な死生観に基づき、患者の病床、介護現場や終末期に寄り添えるプライマリケア歯科医を養成する。さらには、高齢者の「食」を基盤とした健康増進、介護予防、虚弱予防を目指した新しい歯学教育・研究を推進する。</p> <p>そのために以下の具体的方策を掲げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>申請大学と連携大学や協力組織をまとめた歯学教育改革コンソーシアムを設立し、教員FD、学生交流、相互チェック体制を整え、歯学教育改革の高度化と均てん化を図る。</li> <li>岡山大学、連携大学、協力組織が協力して、以下の医療支援歯学教育コースワークを順次開始、連携大学の教員FDや学生交流に解放、提供する。             <ol style="list-style-type: none"> <li>生活習慣病予防と歯科、急性期歯科医療、在宅介護歯科医療に関する講義シリーズ</li> <li>要介護高齢者を模したシミュレーター演習や老人介護・在宅介護施設を用いたPBL演習</li> <li>大学病院周術期管理センターを利用した高度医療支援・周術期口くう機能管理実習</li> <li>臨床講師等を利用した在宅介護・訪問歯科診療参加型学外臨床実習</li> </ol> </li> <li>各連携大学に、特徴ある有病者・高齢者・在宅介護・災害対応に関する医療支援歯学教育プログラムを設置、相互利用を行う。</li> <li>各連携大学の学部教育に、同様な医療支援歯学教育コースワークを組み入れる努力をする。</li> <li>各連携大学の卒後臨床研修制度に、急性期、回復期、維持期、在宅介護現場をサポートする多職種連携医療に対応したコースワークを設置する。</li> <li>一部の連携大学の大学院に、高齢者の「食」を基盤とした健康増進、介護予防、虚弱予防を目指した疫学研究の推進を可能とする大学院組織を作る。</li> </ol>

### ② 年度別のインプット・プロセス、アウトプット、アウトカム

		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
インプット・プロセス (投入、入力、活動、行動)	定量的なもの	<ol style="list-style-type: none"> <li>在宅・訪問歯科診療参加型臨床実習開始(岡山大学):5年次53名</li> <li>老人介護施設を用いたPBL演習の実施(岡山大学):4年次53名</li> <li>高度医療支援・周術期口くう機能管理臨床実習を開始(岡山大学):5年次53名</li> <li>歯学教育・国際交流推進センター設置(岡山大学)</li> <li>担当特任助教2名と非常勤職員雇用</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>医療支援歯学教育コースワークの授業シリーズの閲覧試行開始(60分×15=1単位)</li> <li>シミュレーターや老人介護施設を用いたPBLを公開(岡山大学)、シミュレーターの準備開始(6校×1台)</li> <li>連携大学に授業コンテンツ作成システムを整備(5校×1台)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>医療支援歯学教育コースワークの授業シリーズの閲覧試行続行(60分×30=2単位)</li> <li>シミュレーターの準備継続(5校×1台)</li> <li>連携大学に授業コンテンツ作成システムを継続整備(5校×1台)</li> <li>初期研修医や医学部歯科口くう外科の研修医のコースワークについて試行(60分×15=1単位)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>医療支援歯学教育コースワークの授業シリーズの閲覧試行、一部授業実施(60分×45=3単位)</li> <li>各大学の医療支援歯学教育コースワークの実施状況の相互視察</li> <li>初期研修医や医学部歯科口くう外科の研修医のコースワークについて試行(60分×15=1単位)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>連携大学歯学部において、医療支援歯学教育コースワークを用いた授業実施(60分×45=3単位)</li> <li>各大学の医療支援歯学教育コースワークの実施状況の相互視察</li> <li>連携大学歯学部初期研修医や連携大学医学部歯科口くう外科の研修医のコースワークについて実施(60分×15=1単位)</li> </ol>
	定性的なもの	<ol style="list-style-type: none"> <li>歯学教育改革コンソーシアム設立記念講演会・シンポジウム開催</li> <li>歯学教育改革コンソーシアム第1回事業推進委員会を開催</li> <li>ホームページの開設</li> <li>各連携大学の特徴あるプログラムの登録、試行</li> <li>連携校間や協力施設への教員FDとしての交流開始</li> <li>教員・学生教育や疫学研究へ用いるためのフィールド調査、基盤研究開始</li> <li>岡山大学でキックオフシンポジウム(2/14)、事業推進委員会(学生交流のための単位互換制度のための準備)、第1回外部評価委員会開催</li> <li>歯学教育改革コンソーシアムの電子コンテンツ作成システム(岡山大学)、並びに視聴システム(岡山大学)を整備</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>サーバー整備とコンテンツ視聴システムの機能向上</li> <li>がん化学療法・周術期等の医療を支える口くう管理シンポジウムを開催、事業推進委員会(ウェブコンテンツの作成とブラッシュアップ)</li> <li>連携校間や協力施設への教員FD継続、学生交流開始</li> <li>教員・学生教育や疫学研究へ用いるためのフィールド調査、基盤研究実施</li> <li>各連携大学の特徴あるプログラムの試行、実施、公開</li> <li>昭和大学歯学部で定例歯学教育研究シンポジウム&amp;ワークショップ開催、大学院生の基盤研究や疫学研究の発表の機会を設ける</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>連携大学全体でウェブ授業シリーズのコンテンツ作成継続</li> <li>がん化学療法・周術期等の医療を支える口くう管理シンポジウムを開催、事業推進委員会(ウェブコンテンツの作成とブラッシュアップ)</li> <li>連携校間や協力施設への教員FD継続、学生交流継続</li> <li>教員・学生教育や疫学研究へ用いるためのフィールド調査、基盤研究実施</li> <li>各連携大学の特徴あるコースワークシラバスの修正、実施</li> <li>連携大学で定例歯学教育研究シンポジウム&amp;ワークショップ開催、第2回外部評価委員会開催、大学院生の基盤研究や疫学研究の発表の機会を設ける</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>連携大学全体でウェブ授業シリーズのコンテンツ作成継続</li> <li>がん化学療法・周術期等の医療を支える口くう管理シンポジウムを開催、事業推進委員会(ウェブコンテンツの作成とブラッシュアップ)</li> <li>連携校間や協力施設への教員FD継続、学生交流継続</li> <li>教員・学生教育や疫学研究へ用いるためのフィールド調査、基盤研究実施</li> <li>各連携大学の特徴あるコースワークシラバスの修正、実施</li> <li>連携大学で定例歯学教育研究シンポジウム&amp;ワークショップ開催、大学院生の基盤研究や疫学研究の発表の機会を設ける</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>連携大学全体でウェブ授業シリーズのコンテンツ作成継続</li> <li>がん化学療法・周術期等の医療を支える口くう管理シンポジウムを開催、事業推進委員会(ウェブコンテンツの作成とブラッシュアップ)</li> <li>連携校間や協力施設への教員FD継続、学生交流継続</li> <li>教員・学生教育や疫学研究へ用いるためのフィールド調査、基盤研究実施</li> <li>各連携大学で総括シンポジウム開催、第3回外部評価委員会開催、大学院生の基盤研究や疫学研究の発表の機会を設ける</li> <li>自己評価委員会開催、報告書作成</li> </ol>

アウトプット (結果、出力)	定量的なもの	①在宅・訪問歯科診療参加型臨床実習試行(岡山大学:53名) ②老人介護施設を用いたPBL演習試行(岡山大学:53名) ③高度医療支援・周術期口くう機能管理臨床実習試行(岡山大学:53名)	①在宅・訪問歯科診療参加型臨床実習試行(岡山大学:53名)(連携校:15名) ②老人介護施設を用いたPBL演習試行(岡山大学:53名)(連携校:10名) ③高度医療支援・周術期口くう機能管理臨床実習試行(岡山大学:53名)(連携校:15名) ④シミュレーター演習試行(岡山大学:53名)(連携校:15名)	①在宅・訪問歯科診療参加型臨床実習修了(岡山大学:53名)(連携校:100名) ②老人介護施設を用いたPBL演習の修了(岡山大学:53名)(連携校:15名) ③高度医療支援・周術期口くう機能管理臨床実習修了(岡山大学:53名)(連携校:100名) ④シミュレーター演習試行(岡山大学:53名)(連携校:100名) ⑤授業シリーズ試行(岡山大学:53名)(連携校:100名)	①在宅・訪問歯科診療参加型臨床実習修了(岡山大学:53名)(連携校:200名) ②老人介護施設を用いたPBL演習修了(岡山大学:53名)(連携校:50名) ③高度医療支援・周術期口くう機能管理臨床実習修了(岡山大学:53名)(連携校:300名) ④シミュレーター演習試行(岡山大学:53名)(連携校:200名) ⑤授業シリーズ修了(岡山大学:53名)(連携校:200名)	①在宅・訪問歯科診療参加型臨床実習修了(岡山大学:53名)(連携校:300名) ②老人介護施設を用いたPBL演習修了(岡山大学:53名)(連携校:100名) ③高度医療支援・周術期口くう機能管理臨床実習修了(岡山大学:53名)(連携校:300名) ④シミュレーター演習修了(岡山大学:53名)(連携校:300名) ⑤授業シリーズ修了(岡山大学:53名)(連携校:300名)
	定性的なもの	①閲覧可能な授業シリーズの蓄積 ②連携校間や協力施設へのFD教員派遣, 学生交流 ③疫学研究業績, 基盤研究業績 ④他大学のカリキュラムへ触れる機会の増加	①閲覧可能な授業シリーズの蓄積 ②連携校間や協力施設へのFD教員派遣, 学生交流 ③疫学研究業績, 基盤研究業績 ④他大学のカリキュラムへ触れる機会の増加	①閲覧可能な授業シリーズの蓄積 ②連携校間や協力施設へのFD教員派遣, 学生交流 ③疫学研究業績, 基盤研究業績 ④他大学のカリキュラムへ触れる機会の増加	①閲覧可能な授業シリーズの蓄積 ②連携校間や協力施設へのFD教員派遣, 学生交流 ③疫学研究業績, 基盤研究業績 ④他大学のカリキュラムへ触れる機会の増加	①閲覧可能な授業シリーズの蓄積 ②連携校間や協力施設へのFD教員派遣, 学生交流 ③疫学研究業績, 基盤研究業績 ④他大学のカリキュラムへ触れる機会の増加
アウトカム (成果、効果)	定量的なもの		①9大学歯学部 of 医療支援歯学教育コースワークの均てん化が10%	①9大学歯学部 of 医療支援歯学教育コースワークの均てん化が20%	①9大学歯学部 of 医療支援歯学教育コースワークの均てん化が30%	①9大学歯学部 of 医療支援歯学教育コースワークの均てん化が50%
	定性的なもの	①口くうから全身健康に寄与できる歯科医師, 及び, 急性期, 回復期, 維持期, 栄養サポートチーム(NST), 在宅介護現場に対応できる歯科医師を育てる。 ②適切な死生観に基づき, 患者の病床, 介護現場や終末期に寄り添えるプライマリケア歯科医を養成する。 ③高齢者の「食」を基盤とした健康増進, 介護予防, 虚弱予防を目指した新しい歯学教育・研究を推進する。	①口くうから全身健康に寄与できる歯科医師, 及び, 急性期, 回復期, 維持期, 栄養サポートチーム(NST), 在宅介護現場に対応できる歯科医師を育てる。 ②適切な死生観に基づき, 患者の病床, 介護現場や終末期に寄り添えるプライマリケア歯科医を養成する。 ③高齢者の「食」を基盤とした健康増進, 介護予防, 虚弱予防を目指した新しい歯学教育・研究を推進する。	①口くうから全身健康に寄与できる歯科医師, 及び, 急性期, 回復期, 維持期, 栄養サポートチーム(NST), 在宅介護現場に対応できる歯科医師を育てる。 ②適切な死生観に基づき, 患者の病床, 介護現場や終末期に寄り添えるプライマリケア歯科医を養成する。 ③高齢者の「食」を基盤とした健康増進, 介護予防, 虚弱予防を目指した新しい歯学教育・研究を推進する。	①口くうから全身健康に寄与できる歯科医師, 及び, 急性期, 回復期, 維持期, 栄養サポートチーム(NST), 在宅介護現場に対応できる歯科医師を育てる。 ②適切な死生観に基づき, 患者の病床, 介護現場や終末期に寄り添えるプライマリケア歯科医を養成する。 ③高齢者の「食」を基盤とした健康増進, 介護予防, 虚弱予防を目指した新しい歯学教育・研究を推進する。	①口くうから全身健康に寄与できる歯科医師, 及び, 急性期, 回復期, 維持期, 栄養サポートチーム(NST), 在宅介護現場に対応できる歯科医師を育てる。 ②適切な死生観に基づき, 患者の病床, 介護現場や終末期に寄り添えるプライマリケア歯科医を養成する。 ③高齢者の「食」を基盤とした健康増進, 介護予防, 虚弱予防を目指した新しい歯学教育・研究を推進する。

### ③ 推進委員会所見に対する対応方針

要望事項	内容	対応方針
①	事業期間中は、PDCAサイクルによる工程管理を行った上で、全国の模範となるよう体系的な教育プログラムを展開すること。その際、履修する学生や医療従事者等のキャリアパス形成につながる取組や体制を構築すること。	年間2度、各大学の歯学教育改革の進捗状況を事業推進委員会を開催して相互チェックするとともに、外部評価委員会を2年に一度開催し、外部からの御意見を教育改革に反映する。キャリアパスに関しては、学部教育における教育改革を先行させ、これに続いて研修医教育改革、さらには、これらの新しい教育によって育ったこの分野のエキスパート予備軍を大学院に進め、研究能力を高めるという体制を構築する。
②	事業の実施に当たっては、学長・学部長等のリーダーシップのもと、責任体制を明確にした上で、全学的な実施体制で行うこと。また、地域医療の充実やチーム医療の推進の観点からも、学外の有識者にも積極的に参画いただき、事業の構想を実現できる体制を構築すること。	学長が事業責任者となり、歯学部長が現場を統率する。全国の11大学をつないだ歯学教育改革コンソーシアムを設立し、この事業推進委員会を中心に全国規模で歯学教育改革に取り組む。地域医療の充実やチーム医療の推進の観点から、岡山大学病院長、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科との連携を緊密にとり実施する。協力施設として、東京都健康長寿医療センター、東京大学高齢社会総合研究機構、東京大学生生学・応用倫理センター、国立長寿医療研究センターがあり、間違いなく本邦の最新・最高レベルの教育研究が推進できる。
③	事業期間終了後も各大学において事業を継続することを念頭に、具体的な事業継続の方針・考え方について検討すること。また、多くの大学に自らの教育改革を進める議論に活用してもらうため、選定大学が開発・実践する教育プログラムから得られる成果等を、可能な限り可視化した上で、地域や社会に対して分かりやすく情報発信すること。	各大学の教育レベルが均てん化されるまではある程度の補助が必要になるが、十分な均てん化が生じると、FDのための旅費等の支出は軽減される。また、申請大学である岡山大学には、本事業のような大型プロジェクト獲得後に、事業の継続実施に必要な経費を大学機能強化戦略経費(学長裁量経費)等で支援する制度がある。事業の内容や連携大学・協力施設の教育実績、講演会、論文等に関しては、積極的にホームページ等で広報する。

### ④ 推進委員会からの主なコメントに対する対応方針

推進委員会からの主なコメント(改善を要する点、留意事項)	対応方針
連携校が多いため、机上の空論にならないよう、緊密な連携体制を構築する必要がある。	既に、がん化学療法・周術期等の高度医療を支える口くう内管理を具体的に考えるシンポジウム(平成26年7月26日、27日)、在宅訪問歯科診療参加型臨床実習教育プロジェクトキックオフシンポジウム(平成26年4月27日)、歯学教育改革コンソーシアム設立記念講演会・シンポジウム(平成26年9月26日、27日)等で連携は緊密に取れているところである。 <b>本事業キックオフシンポジウム(平成27年2月14日)の開催も予定している。</b> さらに、歯学教育改革コンソーシアムを介して、緊密な連携体制を構築するとともに、教育内容の均てん化を図る。このために、各大学の学生や教員がログインできる電子学務システムを活用する。
備品の整備に時間を要する計画になっているが、連携大学における事業の実効性を確保するために、可能な限り速やかな整備に努めることが求められる。	5年間で整備する計画であったが、御指摘のように連携校の進捗状況をそろえるためにも、可能な限り、平成27年度と平成28年度において、連携大学に授業コンテンツ作成システムとシミュレーターを整備する。
座学やDVD、e-learningによる学修が多いが、終末期や要介護高齢者との接触を含む臨床体験が非常になることから、実習の充実化が必要。	確立する医療支援歯学教育コースワークは、以下の4項目となっている。①生活習慣病予防と歯科、急性期歯科医療、在宅介護歯科医療に関する講義シリーズ、②要介護高齢者を模したシミュレーター演習や老人介護・在宅介護施設を用いたPBL演習、③大病院周術期管理センターを利用した高度医療支援・周術期口くう機能管理実習、④臨床講師等を利用した在宅介護・訪問歯科診療参加型学外臨床実習。後半の2項目は、臨地実習であり、十分な臨床体験が提供できると予測している。これら臨地実習の教育の質、量の充実を連携して目指す。
成果を確実に上げるために、より明確な目標及び指標を設定することが望ましい。	確立するコースワークの内容も5つの具体的なカリキュラムで表現されている。各コースワークの単位数も具体的に設定されており、年度計画に従って、これらのコースワークの確立と均てん化に尽力する。